

# 小説本文が、掲載箇所まで完璧に一致！

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。  
〔本文にいたるまでのあらすじ〕

「わたし」(永瀬)と学校の人気者の高峰は、小学校からの同級生である。中学三年生の一学期に、高峰の親戚である木下しずくが隣のクラスに転校してきた。「わたし」としずくは、美術教師の田村先生のひきあわせて、言葉を交わすようになっていた。

〔本文〕

① 三学期になると、美術の授業が二クラス合同になった。結婚して、杉村から田村という名になった先生が、黒板に「卒業制作」と大きく書く。

.....

誰も、なにも言わない。たぶん教室の半分以上が、田村先生が言っていることの半分も理解できなかったのだと思う。かくいうわたしも、完全に理解できたとは言いがたい。「永遠がなんなのか、わたしにもわかりません」田村先生がわたしたちの机に近づいてきて「わかったら、教えてください」と小声で言い、離れていった。美術室にざわめきが戻り、わたしはこっそり大きく息を吐いた。高峰が「永瀬、お前は美しいらしいで」と言った。からかうような調子ではなく、心底驚いているようにも見えた。それがまたきまり悪く、思わず下を向く。しずくが絵をいねいに折り畳んでポケットにしまうのを、視界の隅でとらえた。

(寺地はるな『雫』による)

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

〔本文にいたるまでのあらすじ〕

「わたし」(永瀬)は、遠い親戚であり、転校を何度も繰り返してきた木下しずくと最近、話をするようになった。

〔本文〕

① 三学期になると、美術の授業が二クラス合同になった。結婚して、杉村から田村という名になった先生が、黒板に「卒業制作」と大きく書く。

.....

誰も、なにも言わない。たぶん教室の半分以上が、田村先生が言っていることの半分も理解できなかったのだと思う。かくいうわたしも、完全に理解できたとは言いがたい。「永遠がなんなのか、わたしにもわかりません」田村先生がわたしたちの机に近づいてきて「わかったら、教えてください」と小声で言い、離れていった。美術室にざわめきが戻り、わたしはこっそり大きく息を吐いた。高峰が「永瀬、お前は美しいらしいで」と言った。からかうような調子ではなく、心底驚いているようにも見えた。それがまたきまり悪く、思わず下を向く。しずくが絵をいねいに折り畳んでポケットにしまうのを、視界の隅でとらえた。

(寺地はるな『雫』による)